

- 史念海・史先智 1997「論十六国和南北朝時期長安城的小城、子城和皇城」『中国歴史地理論叢』1997年1期
- 尚 民傑 2003「西漢以後的未央宮」『考古与文物』2003年2期
- 妹尾達彦 2001『長安の都市計画』講談社
- 陝西省考古研究所・咸陽市考古研究所 1997「北周武帝孝陵発掘簡報」『考古与文物』1997年2期
- 中国社会科学院考古研究所 2010『古都遺珍—長安城出土の北周仏教造像』文物出版社
- 中国社会科学院考古研究所漢長安城工作隊 2004「漢長安城長楽宮二号建築遺址発掘報告」『考古学報』2004年1期（後、中国社会科学院考古研究所漢長安城工作隊・西安市漢長安城遺址保管所『漢長安城遺址研究』科学出版社所収、2006）。
- 中国社会科学院考古研究所漢長安城工作隊 2008「西安市十六国至南北朝時期長安城宮城遺址の鑽探与試掘」『考古』2008年9期
- 張 建鋒 2010「西安出土の北周石刻仏教造像」中国社会科学院考古研究所編『古都遺珍—長安城出土の北周仏教造像』文物出版社
- 陳 寅恪 1980『隋唐制度淵源略論稿』
- 豊田裕章 2007「石清水八幡宮所蔵「異朝明堂指圖記」と阮謙『周室王城宗廟明堂圖』」『史料 皇學館大學史料編纂所報』208号
- 潘 偉斌 2004『魏晋南北朝隋唐』中国青年出版社年
- 村元健一 2016『漢魏晋南北朝時代の都城と陵墓の研究』汲古書院
- 劉 振東 2006「西漢長安城的沿革与形制布局的变化」『漢代考古与漢文化国際學術研究討論文集』齊魯書社（後、前掲『漢長安城遺址研究』科学出版社 所収、2006）
- 2010「十六国至南北朝時期長安宮城二号建築（宮門）遺址発掘」『2009 中国重要考古発現』文物出版社
- 楊 東晨 2001「陝西東漢至北朝的都城和王城」『文博』2001年4期

（史料）

『隋書』卷一・高祖紀上・開皇2年（582）6月の遷都詔

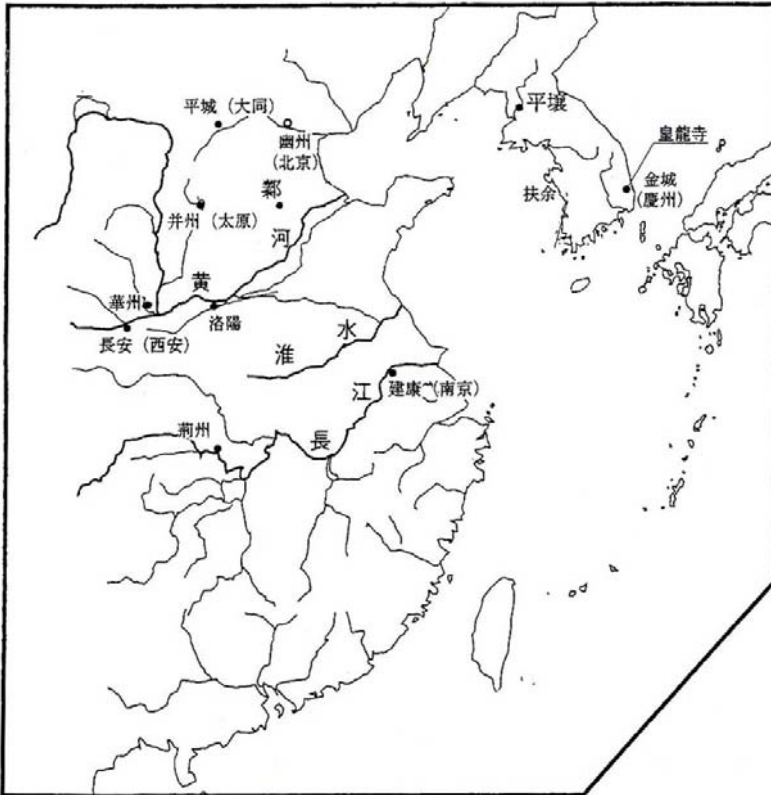
丙申、詔して曰く「朕、祇しんで上玄を奉じ、萬國に君臨するも、生人の敵を屬き、前代の宮に處す。常に之を作る者の勞、之に居する者の逸を以爲うも、改創の事、心未だ違あらざるなり。而して王公大臣、謀を陳べ策を獻じて、威な云わく、義・農以降、姫・劉に至るまで、代に當りて屢しば遷ること有るも、命を革めて徙らざるは無し。曹・馬の後、時に因循せらるは、乃ち末代の宴安にして、往聖の宏義に非ず、と。此の城、漢より彫殘の日久しく、屢しば戰場と爲り、舊く喪亂を經。今の宮室、事は權宜に近く、又た筮を謀り龜に従い、星を瞻、日を揆るに非ず、皇王の邑を建て、大眾の聚る所に合するに足らず。變通の數を論じ、幽顯の情を具にせんとし、同心して固く請うこと、詞情、深切なり。然らば則ち京師は百官の府、四海の歸向、朕一人の獨有する所に非ず。苟しくも物に利し、其れ違う可からざるや。且つ殷の五遷は、人の盡く死するを恐る。是れ則ち吉凶の土を以て、長短の命を制すなり。新しきを謀り故を去るは、如農の秋を望むが如く、暫らく劬勞すと雖も、其れ宅に安んずるを究めん。今、區宇寧一にして、陰陽、序に順い、安安として以て遷らば、胥怨を懷くこと勿らん。龍首山は川原秀麗、弃物滋阜なれば、ト食相土して、宜しく都邑を建つべし。定鼎の基、永固とし、無窮の業、斯に在らん。公私の府宅、規模の遠近、營構の資費は、事に隨い條奏せよ」と。仍りて左僕射高頴、將作大匠劉龍、鉅鹿郡公賀婁子幹、太府少卿高龍又等に詔して新都を創造せしむ。

参考年表 秦～唐まで

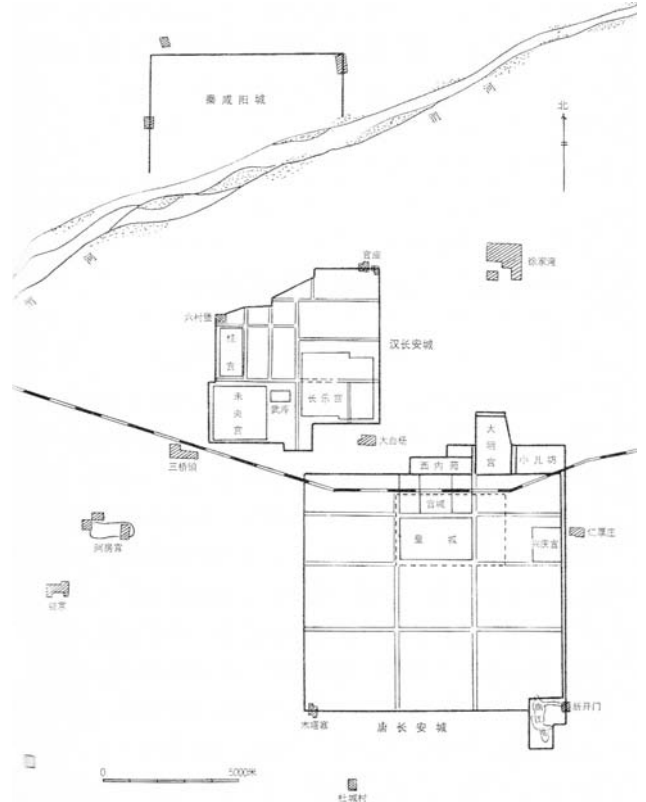
() は都城

日本の時代	弥生時代					古墳時代					飛鳥時代	奈良時代			
日中交渉	卑弥呼遣使					倭五王遣使					遣隋使	遣唐使			
中国の王朝	華北東部 秦(咸陽)	華北西部 前漢(長安)	華南東部 新(長安)	華南西部 後漢(雒陽)	魏(洛陽)	西晋(洛陽)	五胡十六国 東晋(建康)	北魏(平城→洛陽)	宋(建康)	齊(建康)	東魏→北齊(鄴)	西魏→北周(長安)	陳(建康)	隋(長安)	唐(長安)
年代	前221	前206	後8	23	220	265	316	420	479	502	557	589	618		

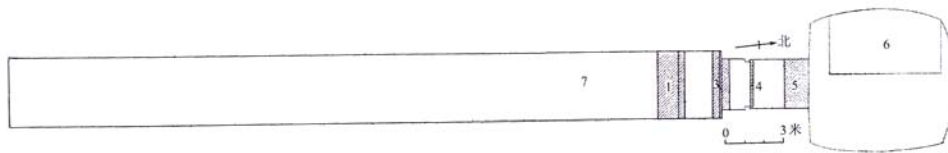
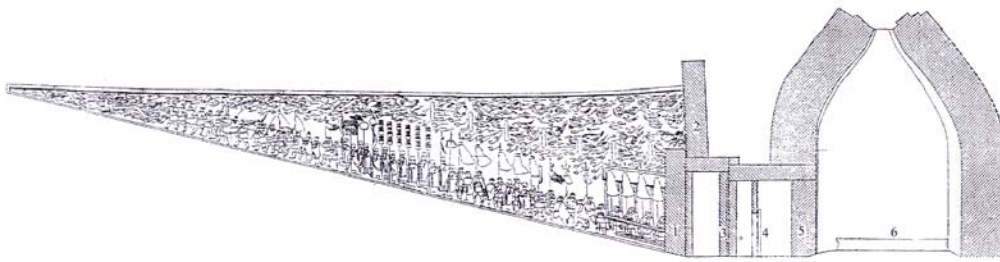
参考図1 年表



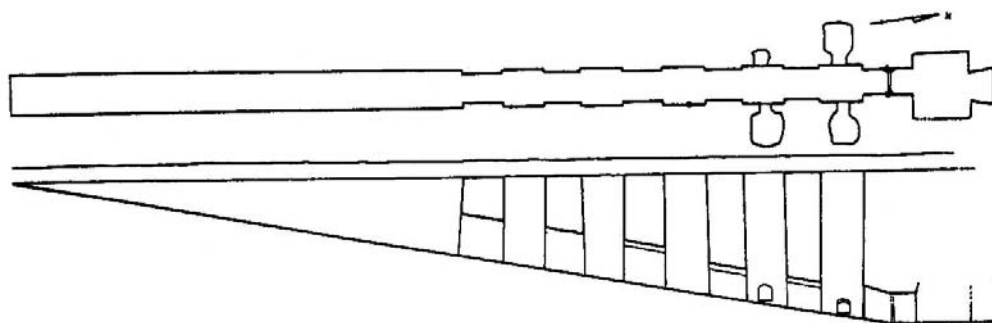
参考図2 中国地図



参考図3 西安市周辺の古城遺跡



①北朝湾漳北朝大墓
(北齊武文宣帝・武寧陵?)



②北周武帝孝陵

参考図4 北朝皇帝陵